

スマートフォンによる安定した 360° 空間撮影を支援
モーター駆動の自動回転雲台「Matterport Axis™」の国内正規販売を 7/1 開始
～デジタルツインの活用で、建設/不動産業界の業務効率化へ～



建設産業をアップデートする野原ホールディングス株式会社（所在地：東京都新宿区、代表取締役社長：野原弘輔）のVDC(Virtual Design & Construction)事業開発部は、あらゆる実空間におけるスマートフォン360°撮影を支援し、より精度の高いデジタルツインⁱ（3D/VR空間モデル）を作成できるモーター駆動の自動回転雲台「Matterportⁱⁱ Axis™（マターポート アクシス、以下「Matterport Axis」）の販売を本日より、下記のリセラーサイトで開始いたしました。

Matterport Axis（雲台）、持ち運び用キャリーケース、リモコン、三脚のセットで価格は15,180円（税込み、為替変動による価格改定の可能性あり）、初年度販売目標は300台です。

従来のスマートフォン360°撮影は、撮影者の手ぶれや位置合わせの誤差によりデジタルツインの品質低下が課題となっていました。Matterport Axisは、360°自動的に回転するのでその課題を解決し、スマートフォンを装着することで一貫性を保った360°撮影が可能となり、実空間を忠実に再現したデジタルツインデータを作り出します。

例えば、多種多様な工事が同時に進行する建設現場での活用が進めば、従来の写真による日々の工事報告書にかわり、現場に従事する誰もが自身のスマートフォンで周辺環境を360°確認可能なリアルで高品質なデジタルツイン工事報告書が手軽に作成できます。結果、現場のコミュニケーション方法がアップデートされ、工事の進捗・品質管理者は、現場の状況把握がしやすくなり、労働時間の改善も期待できます。

弊社は、Matterport Axisの普及により、XR（VR/AR/MR）ⁱⁱⁱや360°画像^{iv}で建設業界の工事進捗・品質管理をアップデートし、建設プロセスの脱アナログ化と現場従事者の利便性向上、働き方改革を支援します。

▼購入場所（リセラーサイト URL）

<https://www.nohara-vdc.jp/matterport/axis>

建設/不動産業界の進捗・品質管理者が現場で抱える課題をデジタルで解決

図面や工程表、現場写真など多くのデータを扱う建設業界は、作業員の情報管理が課題となっており、簡素化・効率化が重要^vとなっています。

特に、建設工事現場では多種多様な工事が同時進行で行われており、現場の状況把握は非常に大変です。

Matterport Axis™(マターポート アクシス)とは

Matterport Axis は、モーター駆動式の自動回転雲台です。360°の自動回転により、空間を手軽かつ高精度に360°撮影できるのが特長で、付属リモコンで遠隔操作が可能です。非常に小型かつ軽量なため持ち運びにも適し、現場や営業所単位での所有もし易い価格になっています。



■自動回転する様子

Matterport Axis を活用することにより、建設現場に従事する誰もが自身のスマートフォンを使って高品質なデジタルツイン工事報告書を作成できます。

ビジュアル的に空間を捉えやすいデジタルツインは、立体・平面ビュー、情報・メディアを付加できるマタータグ機能や、関係者との間でコメントやファイルのやり取りをタイムリーに行えるノート機能などにより、施主や現場従事者とのコミュニケーションも円滑にします。再撮影や再実測といったタイムロスの軽減も期待できます。

	デジタルツイン工事報告	従来 (2D 写真による工事報告)
実空間の再現度	○	○
工事現場環境を 360° 全体的に確認できる網羅性・視認性	○	△
空間内測定機能	○	×
作業負荷	撮影 VR コンテンツ URL の記載のみ	撮影 写真データのダウンロード 写真データの資料への貼り付け
報告内容の共有のしやすさ	○	△

また、不動産業界においては、賃貸物件の管理や、入退去時の記録、原状回復・修繕の証拠といった、物件担当者による日々の業務報告として、Matterport Axis の利用は最適です。

(Matterport Axis の特長、建設業界・不動産業界での利用例の詳細は別紙を参照願います。)

Matterport Axis 購入・問合せ先：野原ホールディングス株式会社 VDC 事業開発部	
リセラーサイト	https://www.nohara-vdc.jp/matterport/axis
フォーム入力	https://www.nohara-vdc.jp/matterport/contact/
メール	matterport-sales@nohara-inc.co.jp

野原ホールディングス VDC 事業開発部について

野原ホールディングスを中心とする野原グループは、「CHANGE THE GAME. クリエイティブに、面白く、建設業界をアップデートしていこう」をミッションとしています。

VDC 事業開発部は、仮想空間でデザイン、視覚化、シミュレーションして最適な空間を実現する VDC (Virtual Design & Construction) という考えのもと、建設業界の DX (デジタルトランスフォーメーション) を推進しています。 <https://nohara-inc.co.jp>



<VDC 事業開発部 主な事業内容>

1. 設計・施工・維持管理などに関する情報の一元管理を可能にする BIMⁱ活用支援
2. [AI による図面読み取り自動積算 WEB サービス「TEMOTO」](#)
3. メーカー製品の BIM オブジェクト作成請負
4. 2020 年 8 月から国内正規代理店として Matterport「Pro2 3D カメラ」及び Matterport のクラウドサービスを販売、撮影・編集のサポート、開発 【WEB】<https://www.nohara-vdc.jp/matterport/>

【お客さまからの問合せ先】

野原ホールディングス株式会社
VDC 事業開発部
e-mail : matterport-sales@nohara-inc.co.jp

【報道関係者からの問合せ先】

野原ホールディングス株式会社
経営企画部(担当：齋藤)
e-mail : nhrpreso@nohara-inc.co.jp

-
- i デジタルツインとは、現実の世界から収集した様々なデータを、まるで双子であるかのように、コンピュータ上で再現する技術を言います。
 - ii Matterport（マターポート）は、建築世界のデジタルトランスフォーメーションをリードしています。Matterport 社の画期的な空間データプラットフォームは、建物をデータ化し、空間の価値とアクセス性を高めます。177 カ国以上の何百万もの建物が、Matterport のデジタルツインとして生まれ変わり、計画、建設、運用から、文書化、鑑定、マーケティングまで、建物のライフサイクルのあらゆる部分を改善しています。
メーカーウェブサイト : <https://matterport.com/ja>
デジタルツインのギャラリー : <https://matterport.com/discover>
マターポート株式会社は米 Matterport, Inc. の日本法人です。
 - iii XR (Extended reality : エクステンデッド・リアリティ) は、「VR」「AR」「MR」などの総称。
VR (仮想現実) は、仮想の世界を現実のように体験できる技術。AR (拡張現実) は、現実の世界に仮想の世界を重ねて体験できる技術。現実世界の映像があり、その上に仮想世界の情報が重なるイメージ。MR (複合現実) は、現実と仮想世界を“融合させる”ことができます。
 - iv 矢野経済研究所が 2020 年 1 月に発表した調査結果によると、XR (VR/AR/MR) および 360° 動画の市場規模予測は右肩上がりに増加していくと予想されています。2022 年の市場予測は 7,971 億円。
 - v 日本建設産業職員労働組合協議会「2020 時短アンケート」
(http://nikkenkyo.jp/download/jitan_digest/2020jitan_digestA4.pdf)
 - vi BIM (ビム) とは、国土交通省によれば、「Building Information Modelling」の略称で、コンピュータ上に作成した 3 次元の形状情報に加え、室等の名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げ等、建築物の属性情報を併せ持つ建物情報モデルを構築することです。